「オーストラリア」　　宮本　ルカ

日本を出発するまで期待と不安、そして恐怖でおしつぶされそうでした。でも、二人行くと分かっていたので安心もしていました。出発してからの飛行機内は地獄でした。その日はちょうど風邪で鼻も耳もつまっていて、頭の中は誰かにハンマーで殴られているような痛さでした。シンガポール航空に到着したときに思っていたことは「暑い」でした。とてつもなく暑く、半袖でないと過ごせないほどでした。この頃には日本人はほとんどいなく、日本語も消え、英語を先頭に様々な国の言葉で溢れていました。この時私は「本当に海外に出たんだ」と思いました。そして、また地獄を通り、やっとの思いでオーストラリアへ到着しました。その頃には二人ともクタクタで脱力感しか感じませんでした。その後の車の中では赤ちゃんの様にぐっすりと眠ってしまいました。起きるとオーストラリアに来たことを忘れ「日本」と大声で言ってしまったことが今でも忘れられないぐらい恥ずかしい思い出でした。

最初に私のホストファミリーの家まで送っていただいたのですが、家に入るととても広く、眠気が覚めてしまいました。私専用の部屋まであって、びっくりしました。ホストマザーとホストファザーだけにしか会えなかったのですが、どちらもとても優しく迎えてくださったので一先ず安心しました。朝リビングに行くと恥ずかしながらもオレナが「ハロー」と声をかけてくれ、ノアは大きなハグをしてくれました。その時にやっとこの二週間という短い生活がはじまるんだと確信しました。

一日目はクラレントンカレッジにお邪魔しに行きました。クラレントンは日本の高校と、全くと言っていいほど違っていました。まず校舎が二倍以上の大きさで校内に宿舎までありました。授業体験をさせて頂いたのですが、猪名川高校とは異光景でした。クラスはなく、私物はロッカーにおき、選択科目の教室を歩き周る形でした。教室内は少数で行っており皆が積極的に授業に参加していて、「勉強しよう」という姿勢が見てとれました。

二日目は市長に会いにシティホールへと訪問させていただきました。まず、歴史が感じられる建物に声もでないほど見入ってしまいました。市長はとても気さくでおもしろい方でした。緊張している私たちにも優しく接して下さりとても安心できました。

四日目は姉妹校であるマウントクリアカレッジに訪問しました。マウントクリアは皆が打ち解けていて、仲の良い所でした。授業すべてがとても楽しく、イースターが迫っていたので授業中チョコを食べたりドリンクを飲みながらゆったりとしていて、とても楽しかったです。その後ワイルドライフパークへお邪魔しました。カンガルーやエミューに出会え、とてもうれしく思いました。

五日目は休日のため西村さんのホストマザーと一緒にメルボルンへ、一人暮らしをしている娘さんに会いに行きました。メルボルンはバララットとは一味違い、音楽と人で賑わっていました。体中が音楽のリズムに乗り、踊っていました。オーストラリアの人々は日常生活での音楽がかかせないぐらい大好きなんだと思いました。

六日目はホストファミリーと町をドライブし、関西代表のお好み焼きを作りました。名の通りホストファミリーの口に合うようにチーズやシーフード、肉などをいれ楽しくクッキングをしました。

七日目はボタニガルガーデンへ行きました。猪名川町とバララットが共に植えた木に出会えました。大きくそびえ立つ木に、私はバララットと猪名川町の切っても切れない関係であり、お互い支え合っている美しい姿を感じました。その後は魚釣りに挑戦し、一番大きな魚を捕えることに成功しました。

八日目は美術館へと足を運びました。アマチュアからプロまでの作品を観ることができましたが、一時間では足りないほど見入ってしまいました。

九日目はまたまたメルボルンへ。今度は電車を使いました。電車は日本と比べ非常に遅かったのですが、周りの景色を見るには丁度良い速さでした。今度は海遊館や買い物をしました。買い物中イラン人

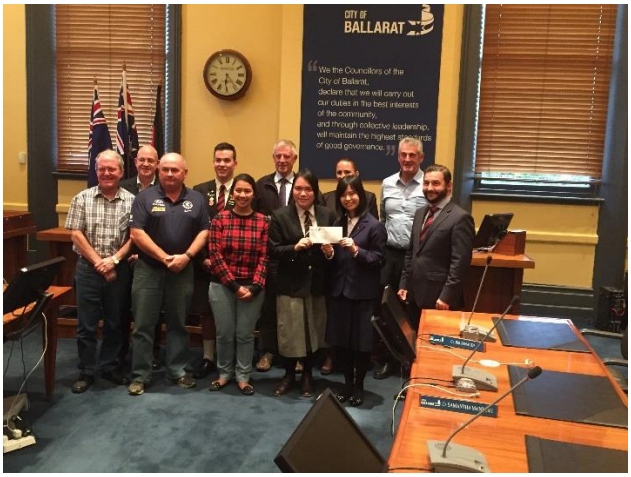
二人組に声をかけられました。いわゆるナンパを経験し、すごくびっくりしました。

十日目はベンディゴへ行きました。ベンディゴはとても美しい町でオーストラリアの歴史を目に感じ、オーストラリアがどうやってできたか、金が有名になったわけなど、疑問を解くことのできる場所でした。

十一日目はシティホールへ、お世話になった人々に感謝の気持ちを伝えました。

残り三日間はホストファミリーを交代したりして西村さんの環境そして私の環境をお互い触れ合いました。

これらを通し私の視野を広げさせてくれた猪名川町そしてバララットに感謝したいです。英語という得意分野を持てたことがとてもうれしいです。スピーチコンテストに出たことはとても光栄でした。将来オーストラリアに帰り、英語を使って世界に貢献したいです。貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。



「オーストラリアでの思い出」　　西村　美柚

スピーチコンテストから五か月。待ちに待ったオーストラリア研修が終了しました。私の頭の中は今、幸せな思い出でいっぱいです。二週間、毎日がとても充実していました。

英語だけの世界は、最初は戸惑いもありましたが、それ以上に楽しい気持ちが大きかったです。通じる喜び、コミュニケーションのすばらしさ、私はこの派遣で最高のものを手に入れることが出来たような気がします。

私がホームステイさせていただいたのは、ホストファーザーの Marius、ホストマザーの Rose、そしてメルボルンに住む十七歳の Arky の三人家族で、弟が以前ホームステイしていた家族でもあり、会った時から自然と馴染むことができました。私の部屋はとても広く、窓から羊・馬・牛だけでなく時には野生のカンガルーを見ることさえありました。私は、毎日ホストファミリーとの会話を心がけるようにしていました。今日経験したこと、ﾊﾞﾗﾗｯﾄの事、日本の事…、二人とも一生懸命私の話に耳を傾けてくれてとてもうれしかったです。常に私が喜ぶようにして下さり、二人は本当の父、母のようでした。こんなに良いホストファミリーに出会えて、私は幸せです。

また、毎日経験したことも、私にとって最高の思い出となりました。中でも印象に残っているのは、高校見学です。昨年猪名川町に訪問した、Scott と Anita の高校二つを見学させていただきました。クラレンドンカレッジでは、物理や化学のほか、中学二年生と高校生の日本語の授業に参加しました。ひらがなやカタカナを遊び感覚で楽しく学ぶ中学二年生。‘日本語を学びたい’と一生懸命頑張る姿に心打たれました。高校生はまるで本当の日本人かのようにすらすら話していました。インターネットを利用した漢字の練習、会話の練習…。あまりにも本格的で、思わず驚嘆してしまいました。私たちもアシスタントとして日本語を教える機会がありました。普段何気なく使っている日本語を見つめなおすことができ、素晴らしい経験となりました。マウントクリアカレッジでは、英語や統計学そしてイースターパーティーに参加しました。日本ではあまり知られていないイースターですが、外国ではイースターホリデーが何日かあるほどビッグイベントです。至る所でイースターエッグやバニーのチョコレートが売られ、私たちが行ったときはイースター一色でした。私も、数えきれないほどチョコレートを食べました。

休日、宮本さんと共にメルボルンに連れて行ってもらい、Arky や友達の Annie と遊びました。二人とも日本のアニメが大好きで、日本人の私よりも詳しかったです。日本のことがこんなにも海外に知られているだなんて、少し誇らしくなりました。

そのほかの休日は、家でゆっくりすることが多かったです。みんなでピザを作ったり、ホストファミリーとの時間を満喫できました。

夜、お散歩をしたとき、星空を見て思わず泣いてしまったことを覚えています。満点に広がる星空、光り輝く月、サザンクロス…。言葉に表しようがない程きれいでした。猪名川町から遠く離れたﾊﾞﾗﾗｯﾄ。それでも同じ地球の一部であり、つながっているのだなと思いました。

今回の派遣で、ﾊﾞﾗﾗｯﾄの歴史や魅力を存分に学ぶことができました。また、私なりに猪名川町のことも伝えられたと思います。文化は違っても英語を通じて、さまざまな人と交流を深めることができました。

毎日が始めての連続でとっても早かった二週間。この二週間は私にとって、かけがえのない宝物となりました。

猪名川町の方をはじめ、たくさんの協力をありがとうございました。

この経験を機に、さらにいろいろなことを頑張りたいと思います。

NAPIER

2
BENDIGO